

Fun parenting bookshelf

こそだての本棚

バックナンバーはこちら▼
M A Y .
ISSUE
0 2



いけ
ない
のは
幸
福
で
す

一
番
学
習
し
な
け
れ
ば



一番身近な存在である親が幸福のモデル

「大丈夫、絶対に解決できるからね」と言われて10年、20年育った人間と、いつも「ここで頑張らないとダメよ」と脅されて育った人間では大人になったときに大きな違いが出てきます。安心感がベースになっていると、困難な出来事にぶつかっても不安に駆られるということはありません。安心して落ち着いて対処ができて、うまくいく。うまくいなくても時間をかければ解決できると思えるのです。大丈夫と思えるようになるには、若いうちに一度は大きな山を一山も二山も乗り越える経験しておくのもいいと思います。山を突破したという自信がその後の人生にいい影響を与えるからです。今、みなさんに子育てする上で何より大切なのは子どもに安心感を与えることだとお伝えしたいのです。

小さな進歩を喜べるようになると子育ては楽しめるようになります。子どもというのは、日々小さな進歩を遂げているはずですが、親が見過ぎてしまったり、「この程度は進歩ではない」と思ったりしてしまいます。もったいない話です。小さな進歩を喜べる親になるために、「できない」よりも「できた」ことに目を向けること。大きな進歩に至るまでには、小さな進歩を重ねているのです。

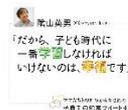
モノが豊かになってきてもこの国は、幸福になることをいまだに学んでいません。そんな気がしてなりません。幸福は学ぶものです。子どもにとって一番身近な存在である親が幸福のモデルになります。モデルがいないと人は学習できません。親の幸福な姿を見ることができれば、子どもはその姿に憧れます。幸福になるために何をしたらよいのか、身につくのではないのでしょうか。

(参考図書の引用)

編集後記

もうずいぶん前に亡くなった祖父が、「喜ばば 喜びごとが 喜んで 喜び集めて 喜びに来る」という遺言を残してくれました。今でもとても大切にしている言葉です。自分自身が人生を謳歌し楽しむ、そうすると周りの人の笑顔になってくれるものと信じています。

長年小学校教諭を務められた本書の著者陰山英男先生は、子どもたちが一番学ぶべきものは「幸福」と言われています。学歴が高くても幸福でなければ仕方がない、と。人生には、少々苦難困難はありますが、それは人生のスパイスのように思うようにしています。レモンはそのままと酸っぱいけれど、炭酸と砂糖を入れると美味しいレモネードになります。何事も幸せな受け取り方と工夫をしながら、子どもたちの幸福のモデルになり続けていきたいと思えます。いつもありがとうございます。ごぞいます。



今回の参考図書紹介

「だから、子ども時代に一番学習しなければならないのは、幸福です」

著者 陰山英男

発行所 株式会社小学館